



# 市制百年 「視形線図」にみる百年前の札幌

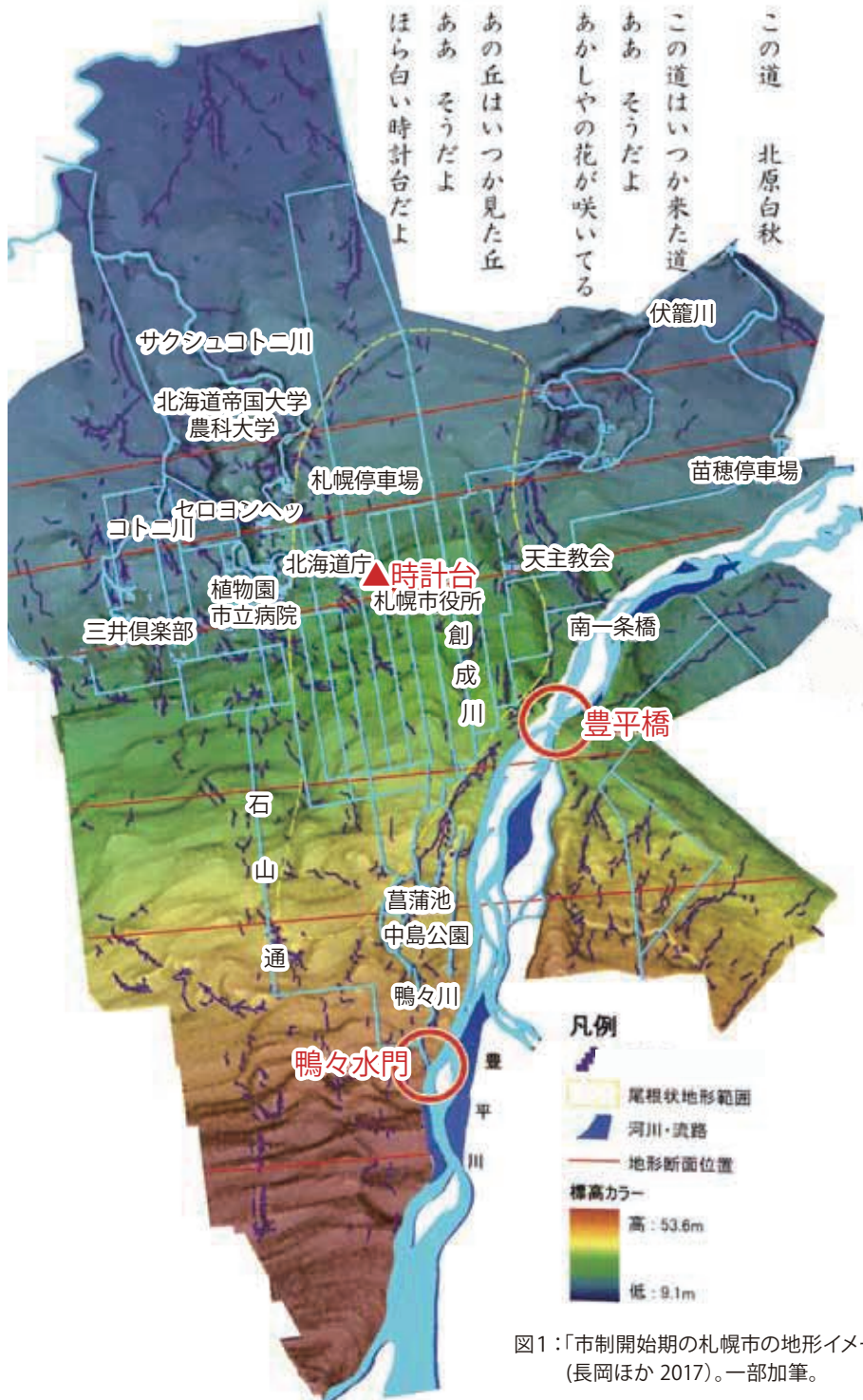


図1：「市制開始期の札幌市の地形イメージ」  
(長岡ほか 2017)。一部加筆。

1922年(大正11年)8月1日、札幌に市制が施行され、札幌区は札幌市となりました。そして、今年  
はちょうど100年目の年にあたります。

島義勇が札幌入りし、本格的な開拓に着手したとされる1869年(明治2年)からわずか53年後のその年、札幌はどのような姿をしていたのでしょうか？

「札幌市街之図(視形線図)」(札幌市公文書館蔵)は、市制施行から間もない1924年(大正13年)に発行された5千分の1地形図で、当時の地形が詳細に記録されています。私も研究に関わった

論文の長岡ほか(2017)は、この地形図からさまざまな情報を読み取り、100年前の札幌の市街地の地形をより鮮明に復原したもので、今回はその一部を紹介し

ます。図1は標高データをもとに傾斜区分図などを重ねて標高で色分けした地形イメージです。

この図で最も目につくのは西11丁目(石山通)付近から植物園、北大(当時帝国大学)へと続く大きな凹みと、中島公園の南から西側を流れる鴨々川から創成川、伏籠川にかけて続く二つの谷地形です。札幌停車場(現在の札幌駅)、道庁、市役所、そ

して時計台などはこのふたつの凹みにはさまれた舌状の高まり(黄色の破線)上に配置されていることが分かります。

1925年(大正14年)、まさに市となったばかりの札幌を訪れた北原白秋は、その折の印象を童謡「この道」の1番と2番にしたためました。特に2番にある「あの丘」とはこの尾根状の台地をさしていると思われ、周囲の地形より3m以上も高く、現在のよう高い建物などがなかった100年前、「時計台」は丘の上でひとときわ白く輝いていたのでしょ。

今一つこの図で目に付くのは、全体を迷路のように覆う豊平川水系の水脈(水色の線)です。

当時の豊平川には現在よりも多くの流れが描かれています。鴨々川の取り入れ口である「鴨々水門」と多くの分流・派流が収束する「豊平橋」付近は、春先の雪解けや秋の長雨時には何度も水があふれ、市内に洪水を引き起こしました。

市制施行の9年前(大正2年)にも鴨々水門付

近が破堤し4000戸近くが浸水しています。当時の浸水範囲を見ると、中島公園から現在の豊平川の西側に沿って、伏籠川沿いに氾濫(はんらん)しています。市の中枢をなす施設はこの尾根状の台地にあることから洪水の被害を免れているようですが、いわゆる市街地に入り込んだ水は台地に張り巡らされた水路によって排水され、サクシュコトニ川へと流れていたことが分かります。

その後もたびたび洪水に悩まされた札幌も、市制施行から50年を経た1972年(昭和47年)、札幌冬季オリンピックが開催され、政令指定都市となった頃には、同年に完成した豊平峡ダムや砥山ダムによって豊平川の水量が調整できるようになり、洪水の数を減らしていきました。

文/学芸員 古沢 仁

#### 【参考文献】

長岡大輔・古沢 仁・重野聖之・丸谷 薫・池田隆司(2017) 札幌市の市制開始期における詳細地形と水文環境、日本地図学会、地図、Vol.55, No.3.

ホット  
コラム

## 展示室につき

札幌で絶滅した動物はいた？



〇月×日 展示解説員 首藤 昌子

820万年前に生きていたサツポロカイギュウ。その末裔(まごい)、ステラーカイギュウは人間に捕獲され、1768年に絶滅しました。その話を学んだ子どもたちから、「かわいそうだね」という声が聞こえました。

では、近現代の札幌において絶滅した動物はいたのでしょうか？「札幌市版レッドリスト2016」には、

エゾオオカミとニホンカワウソが絶滅した哺乳類として載っています。この2種は札幌で見ることができないどころか、地球上から絶滅しているため、ステラーカイギュウと同じく、もう誰も生きている姿を見ることはできません。エゾオオカミの標本(剥製)は世界で2点のみ存在し、北海道大学植物園・博物館に収蔵されています。同館ではニホンカワウソも標本として展示されています。

生き物が絶滅する原因として、毛皮や食料として捕まえたり、危険だ



写真:エゾオオカミ剥製標本  
(北海道大学植物園・博物館収蔵)

からと駆除したり、開発による環境破壊によりすみかを失ったりするなど、人間が大きく関係しています。「かわいそう」という気持ちを忘れず、私たちが一緒に暮らす札幌の生き物たちが未来でも元気で暮らしている姿を想像して、展示を見てくださいな。

# コレクションクエスト

ふだん公開していない  
収蔵物を紹介します。  
さあ、標本の世界を冒険だ！

この2年で、DNAを調べるための「PCR」という言葉が身近になりましたが、生物の分類学の研究方法としても、サンプルからPCR法でDNAを増やし、生物種の相違を判定する方法が用いられます。

博物館活動センターには、道内では記録が少ないタイリクアキアカネとされる標本が1点収蔵されていました。タイリクアキアカネと“赤とんぼ”として普通に見られるアキアカネはよく似ているため、専門家でも外見での判断が難しいとされています。当センターのタイリクアキアカネとされる標本の一部をサンプルとしてDNA解析した結果、この個体はアキアカネの配列と一致したことから、正しくはアキアカネだと判明しました。

引用文献：横山透・二橋亮 2021. 札幌市で記録されたタイリクアキアカネの検証。  
北海道トンボ研究会報 32: 11-12.



標本番号TKHK-002  
採集日：1994年8月18日、採集地：札幌市北区あいの里、採集者：北海道拓北高等学校理科研究部

文/学芸員 山崎 真実

## File No.12 ウィズコロナの博物館活動

## SMAC活動レポート

当センターで行われる、市民の自主的活動や、学校との連携など、さまざまな活動を紹介します。

2020年1月に新型コロナウイルス感染症が日本で見つかり、2年が経過しました。博物館活動センターも感染拡大防止のため、休館をしたり人数制限を行ったりしながら、調査研究・資料の収集保存・普及交流活動を行ってきました。

子どもたちが楽しみにしていた塗り絵や折り紙などのワークショップ、樹脂封入された触れられる標本の展示は、2020年2月からお休みしています。

そのような中、2021年11月の毎週土曜日にミニワークショップ「花豆を観察してみよう!」を試験的に行いました。センターの花壇にある花豆を自分で収穫し、植物の学芸員の解説を聴きながら自分の豆を観察するものです。

屋外でのイベントでちょっと寒い日もありましたが、延べ70人が参加し、子どもも大人も花豆を

手に楽しそうに話を聴いていました。

これからもアフターコロナを見据えて、ウィズコロナの博物館活動を皆さんと考えていきたいと思ひます。



写真：花豆の花を観察



### 交通アクセス

- 地下鉄南北線「澄川駅」北出口から徒歩約10分
- 地下鉄南北線「南平岸駅」東出口から徒歩約14分

### 札幌市博物館活動センター information

入館料：無料  
開館日：火曜～土曜 開館時間：10時～17時  
休館日：日曜・月曜、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



ホームページアクセス  
二次元コード



### 発行 札幌市博物館活動センター

〒062-0935 札幌市豊平区平岸5条15丁目1-6 Tel : 011-374-5002 Fax : 011-374-5014  
Email : museum@city.sapporo.jp ホームページ : <https://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュージス・レターは、植物油インキおよび、環境省が定める「グリーン購入法」の適合紙を使用しています。